

平成30年11月13日

報道機関 各位

平成30年度 生命融合科学教育部シンポジウム
神経科学が解き明かす動物の行動：機能の変容と疾患

開催日時 平成31年1月11日（金）13:00～17:45

開催場所 富山大学 日医工オーディトリウム 杉谷キャンパス

この度本教育部において、別紙のとおりシンポジウムを開催する運びとなりました。つきましては、本シンポジウムつきまして取材、報道方宜しくお願い致します。

【開催趣旨・目的】

私達が生きる複雑な現代において、ヒトのこころの理解と、その変容としての心の病についての関心はとて高まっています。行動とこころの理解を探る神経科学には、疾患を理解して治療へと向かう応用の側面があります。本シンポジウムでは、この分野でご活躍されている学内外の6名の先生方にご講演いただきます。

【講演内容】

「右利き・左利きの発現メカニズム」

竹内 勇一 富山大学 大学院医学薬学研究部(医学) 解剖学講座 助教

「光で記憶を見る・操作する」

大川 宜昭 富山大学 大学院医学薬学研究部(医学) 生化学講座 講師

「恐怖記憶とその抑制を制御するカテコールアミン神経系の役割」

植松 朗 理化学研究所 脳神経科学研究センター
学習・記憶神経回路研究チーム 研究員

「睡眠覚醒調節と記憶の制御に関わる神経の活動記録と操作」

山中 章弘 名古屋大学 環境医学研究所 ストレス受容応答研究部門 教授

「遺伝子改変マウスの行動解析を起点とした精神疾患研究

ー 行動生理学というアプローチ」

高雄 啓三 富山大学 研究推進機構 研究推進総合支援センター
大学院医学薬学研究部(医学) 行動生理学講座 教授

「うつ病の神経炎症仮説における神経回路の役割」

相澤 秀紀 広島大学 大学院医歯薬保健学研究科(医) 神経生物学講座 教授

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学 医薬系事務部医薬系総務課
TEL. 076-434-7007